

ご 注 意

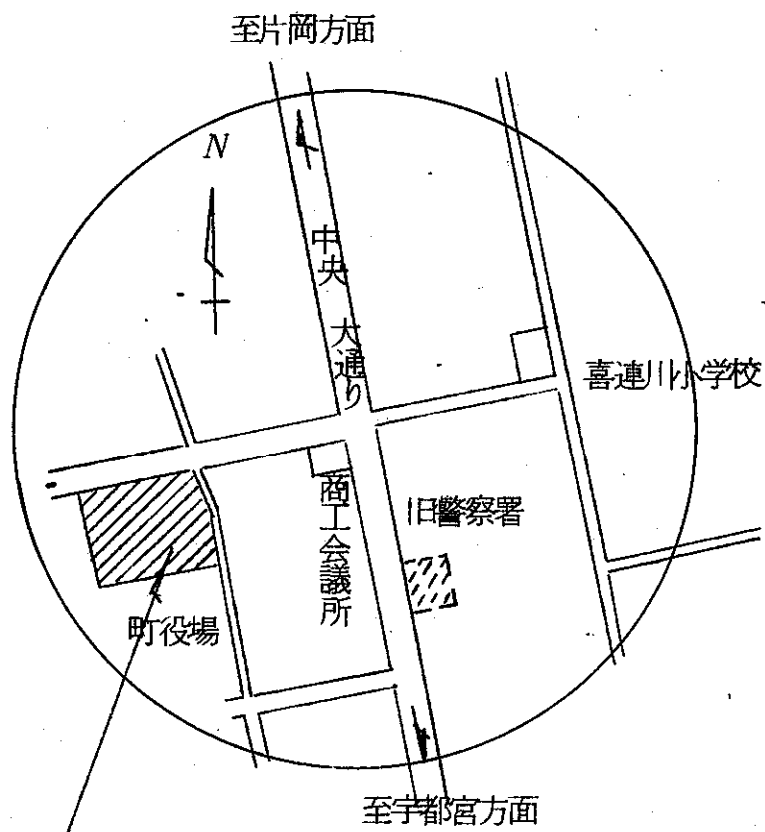
地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。(建築基準法施行令第93条)

地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

栃木県土木部建築課

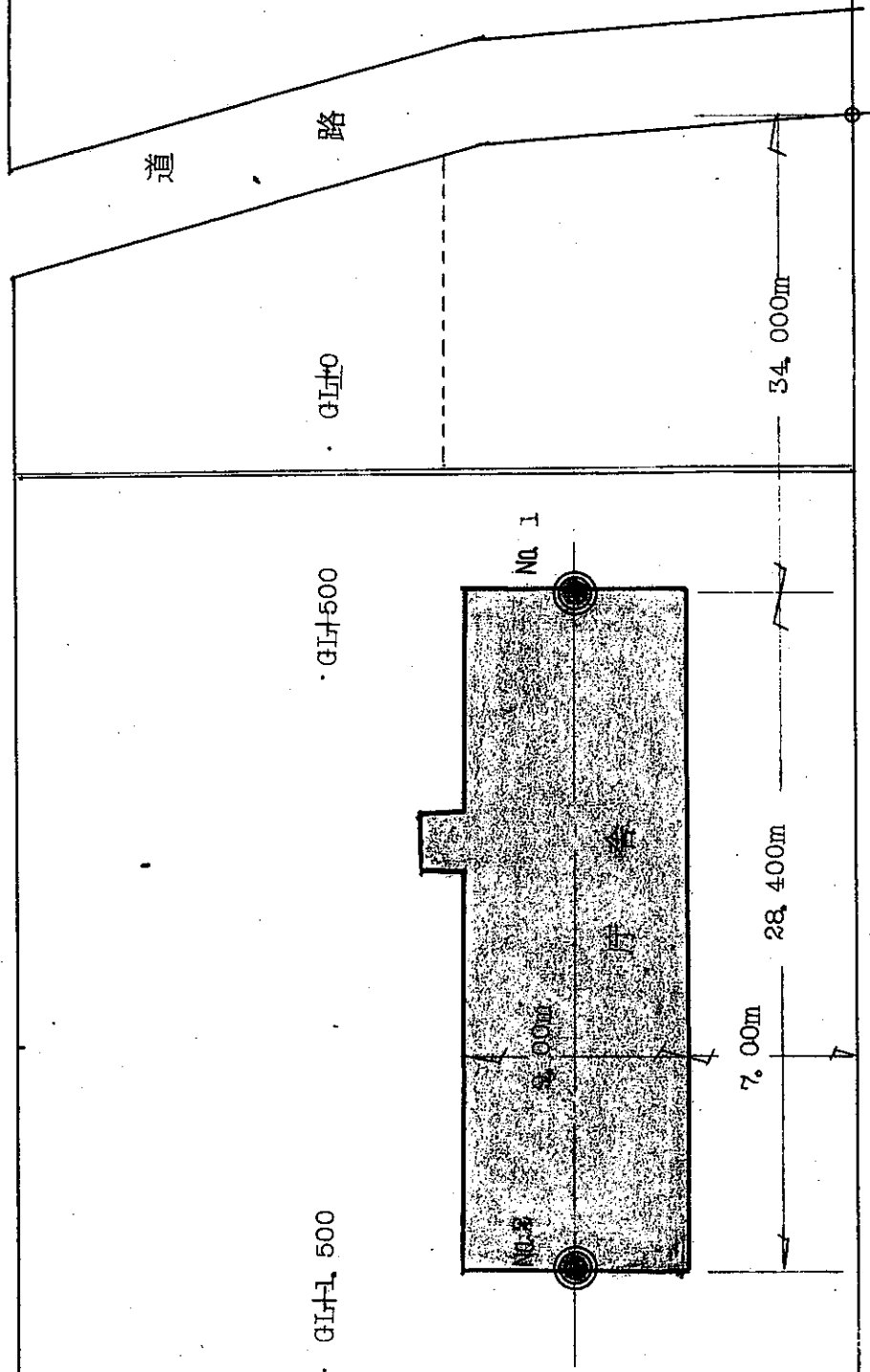
附近見取図



申請地 塩谷郡喜連川町大字喜連川4397

喜連川警察署庁舎新築工事に伴う地質調査

位置図 S=1/300
道路



ボーリング柱状図

調査名 喜連川警察署庁舎新築工事に伴う 孔番 No. No.1 地盤高 +500 m

調査場所 地質調査 喜連川町大字喜連川 (基準面 BM+1.50m)

地 形 _____ 摘 要 _____

調査期間 昭和50年7月18日 ~ 7月23日

地下(孔内)水位 -2.50m

調査担当者 _____

標地下水 高位 (m)	深 度 (m)	層 厚 (m)	土 質 記 号	土 質	土 性		備 考	(註) 試 料		原 位 試 験 深 度 (m)	標 準 貫 入 試 験							
					色 調	相 対 密 度		番 号	記 号		採 取 深 度 (m)	試 験 深 度 (m)	打 撃 回 数					
											0	10	20	30	40	50	60	70
	0																	
	1						1m~1.70m間 玉石の介在あり。	1	28.22/6	1.15/50 1.31/46								
	2				暗	非	礫径φ=30% ~50%位の混 入多い。 礫は風化質目立 つ。 7m附近礫混入 多い。 礫φ=70%~90 %位混る土 9m附近より礫 径幾分小さくな りφ=10%~20 %位の礫混入多 くなる。	2	13.16.20	2.15/49 2.25/49								
	3				褐	常		3	17.22.9/6	3.15/50 3.38/52								
	4				色	に		4	17.33.	4.15/50 4.35/50								
	5					密		5		5.15/50 5.27/42								
	6					な		6	10.16.21	6.15/41 6.25/41								
	7							7		7.15/50 7.24/49								
	8							8	31.19/7	8.15/50 8.32/47								
	9							9	13.37/11	9.15/50 9.32/51								
	10							10	29.27/5	10.15/50 10.30/45								
	11							11	26.24/6	11.15/50 11.31/46								
	12	12.30	12.30	凝灰質 砂 礫			12		12.15/50 12.18/5									
	13	13.35	5.05	凝灰質 中 砂	黄	中	下部幾分固結 状	13	6.9.2	13.15/23 13.25/23								
	14				黄	非	礫混入多い所と 混入少ない所あ り。 14m~17m附近 礫混入多い。 角礫混入目立つ。	14	30.15.6/6	14.15/50 14.38/52								
	15				灰	常		15		15.15/50 15.28/43								
	16				色	に		16	37.13/3	16.15/50 16.28/43								
	17			凝灰質 砂 礫			17	12.12.21	17.15/51 17.25/45									
	18	18.70	5.35		茶	密	18m砂質土挟 在。軟質礫灰	18	7.11.14	18.15/32 18.45/45								
	19			凝灰質 砂 礫	茶	非	礫径φ=20% ~30%位混入多 い。	19	28.22/6	19.15/50 19.21/46								
	20				灰	密		20	29.21/8	20.15/50 20.38/48								

